

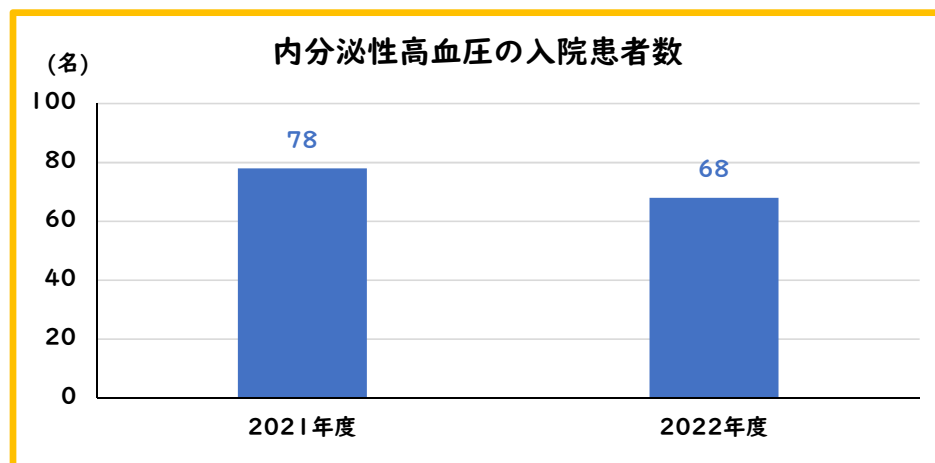
## 2 内分泌性高血圧の入院患者数

内分泌・糖尿病内科

### ◆解説◆

高血圧は心筋梗塞や脳梗塞といった重篤な疾患を引き起こします。高血圧には特に原因のない高血圧（本態性高血圧）と、何らかの原因の結果発症する高血圧（二次性高血圧）があります。二次性高血圧はその原因によって治療方針が異なり、適切な診断と治療が必要となります。当科は二次性高血圧の中でも原発性アルドステロン症などのホルモン過剰が原因となる内分泌性高血圧診療に力をいれています。この内分泌性高血圧は難治性であり、適切な診断と治療は心筋梗塞や脳梗塞を予防でき、患者の健康寿命の延長につながります。

### ◆当院の実績◆



### ◆自己点検評価◆

2021年度、2022年度ともに、多数の内分泌性高血圧の入院患者を受け入れています。この症例数はおそらく大分県内で最も多いことが予想されます。この2年間はコロナウイルス感染症の流行の影響を受けており、入院制限される期間も多々ありました。2023年度以降は患者数の増加が予想されます。

### ◆定義◆

「原発性アルドステロン症の疑い」「クッシング症候群の疑い」「褐色細胞腫の疑い」「腎血管性高血圧の疑い」「副腎腫瘍の疑い」「難治性高血圧」をDPCの主病名に、上記病名を登録している退院患者